

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	馬 麗 坤
題 目	中国における中小規模食品加工企業の原料調達と契約取引に関する研究 (A Study on Raw Material Procurement and Contract Transactions of Small and Medium Scale Food Processing Companies in China)
<p>中国では国民所得の向上に伴い、青果物加工品の需要が高まり、青果物食品加工企業の数が増加している。一方、中国政府は契約取引の促進のための優遇政策を実施しており、契約取引総数は増加している。しかし、全国の企業総数の9割以上、税込総額の5割以上を占めている中小規模食品加工企業数は減少している。これまでの食品加工企業の原料調達と契約取引に関する先行研究は主に龍頭・大規模加工企業について分析されてきたが、中小規模の企業についての研究は行われていない。そこで、本論文の課題は、中小規模食品加工企業における原料調達の特徴と契約取引の意義を明らかにすることである。</p> <p>調査地域は河北省保定市満城県である。河北省は中国で最もいちごの加工量が多い省であり、河北省の中部に位置する保定市の満城県は、中国におけるいちご加工品製造の主産地である。本論文では、満県県の中小規模青果物食品加工企業を事例として、自治体の統計資料、現地調査とオンライン調査に基づいて実証分析を行う。</p> <p>中国の中小規模食品加工企業における原料調達の特徴と契約取引の意義について、結果をまとめると以下ようになる。</p> <p>中規模加工企業原料調達の特徴は、農家との契約取引関係を形成した後、新鮮で安価な原料を調達できることである。また、契約取引の意義は、契約取引を通じて販路を拡大していることである。</p> <p>また、小規模加工企業のうち、加工技術力の高い企業は、継続的に高品質いちご加工品を二次加工場に高値で販売している。これらの企業の原料調達の特徴は、調達先を品種が指定できる農家に転換していることである。また、契約取引の意義は、契約取引を通じて高品質な原料を調達し、高品質な加工品を製造・販売していることである。</p> <p>これに対し、加工技術力の低い小規模加工企業は、品質の劣るいちご加工品を価格面で有利なネット販売に転換した。これらの企業は、契約取引による価格面で十分なメリットが得られなくなり、契約取引の意義がなくなったため解除した。また、原料調達の特徴は、ネットの不安定な販売に対応するために、調達先は年間を通じて同品質の安価な原料を調達できる栽培基地に転換していることである。</p> <p>他方、原料生産者の販売行動について、結果をまとめると以下ようになる。</p> <p>栽培面積の広い農家は、販売量を確保するために、中規模加工企業と契約している。また、一部の栽培面積の小さい農家は、販売量を確保するために、加工技術力の高い小規模加工企業と契約している。しかしながら、他の栽培面積の小さい農家は、加工技術力の低い小規模加工企業と契約なしで取引している。他方、栽培基地は栽培面積が広いにもかかわらず、構成農家</p>	

への収益分配のトラブルを回避するために、買い手のニーズに満たすことができず、加工技術力の低い小規模加工企業にのみ販売している。

先行研究において、龍頭・大規模加工企業の原料調達の特徴と契約取引の意義は、販売先を変えずに、指定品種の原料調達量を安定的に確保するために契約取引を行うことが一般的であった。また、小規模加工企業の場合も、加工技術力の高い企業では、高品質加工品の販売先を変えずに、指定品種を求めるために契約取引を行うところがある。しかし、龍頭・大規模加工企業の原料調達の特徴と契約取引の意義とは異なり、中規模加工企業は契約取引によって、販売先を拡大している。また、加工技術力の低い小規模加工企業では、より高い価格の販売先に変更した後、契約取引を解除するところもあることが明らかになった。このように、原料の契約取引は、中規模加工企業と技術力の高い小規模加工企業には重要であるが、技術力の低い小規模加工企業には重要ではない。